



# 春季 住民懇談会

2017.5.22-6.12

春季住民懇談会が5月22日(月)から6月12日(月)まで、市内7会場で行われました。

懇談会では、市から平成29年度予算と炭鉱遺産活用基本構想、小中学校適正配置計画の変更計画について説明をしました。

皆さんからは、あらためて炭鉱遺産活用に関するご質問があり、また、昨年の大雨被害に関連して、災害対応や町内会との連携などについて多くのご意見・ご要望が寄せられました。

全市的な内容から地域・町内の様々な課題まで、例年以上に活発な意見交換が行われました。

## 炭鉱遺産活用

**Q** 立坑の保存・継承については理解したが、活用はどのように行うのか。

**A** 基本構想の中のゾーニング図で示されているとおり、立坑ゾーン・坑口浴場ゾーン・自走桟工場ゾーンの3つのエリアを整備します。立坑は重要文化財指定を目指し、立坑見学のためのガイダンス施設を整備します。

炭・鉄・港の市町と連携して日本遺産登録も目指し、認知度を高めながら、観光と教育の両面

で交流人口を増やしたいと考えています。

**Q** 炭鉱遺産活用基本構想案の市民説明会では反対意見が多かったと思うが、基本構想はその際の見解を取り入れたのか。

**A** 説明会では厳しいご意見をいただきました。基本構想案は市民代表の総合戦略会議や活用検討協議会での議論を経てつくられ、市民説明会での意見を受けて修正したものですので、ご理解ください。

**Q** 炭鉱遺産は構想や計画ありきで進んでいくように思う。

**A** 立坑は壊してしまうと元通りにできません。学術的にも価値があるものとして残していく判断をしました。

「長期的改修・耐震関係」の事業費は重要文化財指定を受けた後の費用ということになります。重要文化財指定に向けた努力は続けたいと思いますが、もし指定が受けられなかったときは、事業を行わずに朽ちていく様子を見守る「安定的見守り保存」も検討します。指定を受けたときには必要な事業費を議会に提案して審議をしていただきます。

**Q** 立坑の譲渡を受けて自由に見学ができるようになったと思うが、見学者は増えたのか。

**A** 昨年の見学者は700名ほどでした。昨年度4・5月の実績は59名でしたが、今年の同期では、すでに200名を超えています。また、今年は札幌市立大学と連携したアートプロジェクトや、炭鉄港セミナーの赤平開催、海外からの観光客の来場も予定し、見学者は例年を上回る見込みです。

**Q** 赤平市の炭鉱は住友だけではない。別の炭鉱も基本構想に組み込むべき。

**A** ガイダンス施設は資料館のような性質というよりも、炭鉱遺産見学の前に知識を身につけてもらい、実際に炭鉱遺産を見てもらうための施設です。資料は住友のものが多くですが、ほかの炭鉱の資料も、展示資料の入れ替えをしながら見てもらえるようにしたいと思っています。住友や立坑だけではなく、「炭鉱のまち赤平」を前面に出していきたいと思っています。

●炭鉱遺産については、あらためて財政面などを心配されるご意見・ご質問をいただきました。(5月号掲載「市民説明会の結果」と同様の質疑応答については、今号での掲載を省略します。)

●炭鉱遺産の見学者を見越して

宿泊施設を整備してほしい。大学などと連携して宿泊や滞在をしてもらうために、基本構想案から削られたスポーツゾーンなどを復活させて複合的な利用ができるように整備してほしいというご意見もいただきました。



立坑のイベント活用

## 防災

**Q** 昨年、大雨による災害が発生した。今後も風水害が懸念されるが、避難所の収容人数は足りないのではないのか。備蓄品の状況はどうなっているのか。

**A** 市で指定している屋内の避難所は13カ所です。収容人数は約2,500人で、耐震促進計画において人口の19%をカバーする人数として設定しています。備蓄品は食糧1万食、飲料水1万5千本などを市内に分散して備蓄し、消費期限の前に定期的に更新しています。

**Q** 災害に強いインフラ整備と避難場所の環境整備を行ってほしい。

**A** 災害時の対応については、昨年の経験と反省をふまえながら、迅速な情報提供や防災マップなどの整備を含め、対応を検討していきます。

仮に全市的に避難勧告が発令されたときは、市職員や消防だけではまかないきれないこともあるので、町内で自主防災組織をつくって、行政と一緒に避難を進めていただくことが必要になると思います。

● 防災に関しては、町内会との連携を密接にするよう強く要望を受けました。昨年の災害を検証し、連絡の徹底を図ります。



総合防災訓練の様子

## 学校統合

**Q** 統合中学校建設について、当初計画では現在の赤平中

学校を改修・増築する予定だったが、新築となった経緯を教えてください。

**A** 当初は改修・増築の計画でしたが、経費を試算したところ、大規模改修と新築とでは市の負担額が大差ないことが判明し、また、赤平高校の跡地を北海道から無償譲渡されることになりました。新築の方が長くつかえるだろうということで計画を変更しました。

**Q** 将来、小学校を統合すること、または、また新築することになるのか。今の校舎を再利用することはできないか。

**A** 現段階では現在の赤平中学校を取壊して建て替える計画です。赤平中学校の校舎は建設後、すでに30年以上が経過しており、近い将来、改修や建て替える必要になるうかと思えます。長い目で見ると国からの交付金をつかいながら新しく建てた方がよいと考えています。

## 根室本線・交通

**Q** 根室本線対策協議会はどのくらい協議が進んでいるのか。存続要望だけの状況か。

**A** 存続に向けた検討や視察を行っています。道内の見直

し対象となっている区間について、沿線自治体・JR・北海道の三者の事務レベル協議が始まっています。路線の存続は北海道全体での協議が必要となります。

● 市の高齢化率が上昇していくにあたって、鉄道だけでなくバス会社とも連携を図って、高齢者の移動手段を確保してほしいというご意見もいただきました。



根室本線

## 子育て・教育

**Q** 取組の順番として、中学校統合、小学校統合、認定こども園開設の順と理解してよいのか。

**A** 公共施設等総合管理計画の中で、認定こども園は中学校、小学校の後となっていますが、ニーズに応じて順番が前後することもあるかと思いますが、ご意見を伺いながら進めていきたいと思っています。

## 空き家対策

**Q** 倒壊した空き家があり、風で資材が飛ばされたり、子どもが入り込んだりして危険だ。

**A** 危険な空き家については、市で所有者を探し、除却などをお願いをしているケースもありますので、まずはご相談ください。

## 公営住宅

**Q** 新たにシルバーハウジングを建設する予定はあるか。

**A** 市内には現在4カ所のシルバーハウジングがあります。公営住宅の数が現状のため、新たに建設することは難しいです。

**Q** 空いている公営住宅を企業に貸し、住宅のような形でつかってもらうことはできないか。企業に勤めている若い人がほかの市町に住んでいるという現状を何とかできないか。

**A** 公営住宅は住宅困窮者に住んでもらうことが大前提です。ので、社宅とすることは現状では無理ですが、赤平に住んでもらえるように国の限度額まで入居基準を緩和しています。

## 財政

また、民間住宅に対する家賃助成制度など、移住促進のための取組を行っています。

**Q** 年々、地方債の金額が増えてきている。返すあてがある借金なのか。好転する見込みはあるのか。

**A** 中学校の建設などで大きな費用がかかるので地方債の金額も増える見込みです。地方債は償還（返済）した一部が国から交付税として市に補助されるので、地方債のすべてが市の負担ではありません。

## その他

**Q** スリ山階段下やコミュニティ広場のトイレなど、せっかく整備したのに冬期間つかわないというのはもったいないのではないか。

**A** ブリ山階段下のトイレは、駅裏にトイレがないというご意見を受けて設置しました。コミュニティ広場のトイレを含めて、トイレは冬期間もつかうとなれば費用がかかりますので、費用対効果を判断しなければならぬと思います。（以上）